

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者氏名 50代 男性 要介護1
利用期間 令和6年1月～現在
既往歴 脳腫瘍 脳梗塞 脳出血
経 過

13歳で脳腫瘍を経験しながらも、治療によって回復し、以後約30年間にわたりフリーカメラマンとして活動してきました。令和5年7月に脳出血を発症し緊急入院。回復期リハビリテーション病院を経て、令和6年1月下旬に自宅へ退院しました。右半身に不全麻痺と高次脳機能障害が残り、かつての仕事の記憶や再びカメラを手を取る方法さえ困難になってしまいました。今後、何をどうすればよいのかも分からない混乱の中、退院直後からケアセンターけやきの利用を開始しました。

内 容

20歳代からフリーカメラマンとして自営していたが、令和3年11月脳梗塞を発症、高次脳機能障害（失語・失行・失認）の影響で、カメラ操作や顧客との交渉が出来なくなりました。そのため、入院中に就労支援センターを紹介され、復職に向けパソコン操作などの就労支援を受けていましたが、令和5年7月に脳出血を発症し再入院。回復期リハビリテーション病院を経て令和6年1月自宅復帰予定も、身体機能や高次脳機能障害が重度化（要介護3）、就労支援は打ち切られました。

ご本人は仕事復帰を強く希望、戸惑いや不安を抱えていた為、総合的に支援可能なケアセンターけやきの利用を開始しました。そこで改めて目標設定を行い、「カメラマンとしての仕事の再獲得とサポート環境づくり」を目指すことで本人と家族の意思を共有しました。リハビリはPT（歩行・移動の安定）、OT（機材やパソコン操作）、ST（コミュニケーション力向上）を週2回実施しました。2か月ほどで屋内歩行自立、5か月後にはADLはほぼ自立レベルに到達しました。以後はコミュニケーション能力の向上やカメラ作業の自立に向けて支援を続けております。

リハビリを通してできることが増え、写真活動や趣味を楽しみたい気持ちが芽生えたことで、さらにリハビリへの意欲も高まりました。令和6年10月末には歩行やバランス保持が安定し、自発的に外出するまでに回復しました。スマホでのメールや写真撮影技術も向上し、「自分が何をしたいか、何をすべきか」を明確に表現され、30年来通っていたビリヤード場にも3年半ぶりに訪れ、旧友と再会し趣味も再開しました。けやきクリスマス会や障がい者カフェでの撮影も意欲的に取り組まれ喜ばれております。

今後はフリーカメラマンとしての本格復帰と、けやきでの写真展開催、趣味活動の再開を新たな目標と

しております。高次脳機能障害の改善には今後も時間がかかると思われますが、写真撮影などの活動を通して、our teamで支援することにより、前向きに取り組めるようになりました。その姿は生き生きと輝いており、キラキラ介護賞に値すると考え、推薦致します。

【OURTEAM】

CM：プラン作成 PT：身体機能向上・事業所・娯楽施設交渉 OT：巧緻動作向上 ST：失語症
訓練 Ns.：体調管理 Dr.：服薬管理・指示

けやき(入所・通所介護・ドライバー・利用者)：撮影場所、被写体提供、移動支援

障がい者カフェ：撮影場所、被写体提供、就労情報提供